

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
1	労働災害	令和6年4月1日	月	15:00	設備工事	はさまれ・巻き込まれ	既設アラーム弁の撤去後、本体付属のフランジを解体しようとして二人でボルトナットを外そうとしていた所、ナットが回った際に工具と手元近くの配管架台とに指をはさまれた。	【人的対策】 工具使用の際には無理な力をかけず、手で動かせない場合には、潤滑油の使用等、別の方法を検討する。 【物的対策】 作業場所の整理整頓を行い、広いスペースで作業を行う。 【管理的対策】 安全教育資料に工具の正しい使用方法、潤滑油の使用、作業場所の整理整頓について記載し、作業者への周知を図る。また、作業場所に『整理整頓』の表示を行う。
2	労働災害	令和6年4月18日	木	9:30	下水道工事	切れ・こすれ	傾斜部（角度40°）のコンクリート取壊し作業時に、ハンドブレーカーのノミ先が滑り、安全靴の鉄芯に当たり、さらに滑り親指付け根付近に当たり被災した。	【人的対策】 ・作業手順書を作成し、作業前の安全作業方法を毎日再確認する。 【物的対策】 ・足場で作業床を設置し、ノミ先を斜面に垂直に充てられるようにする。 ・足の保護具（甲プロテクター）を着用する。 【管理的対策】 ・現地KYに立会い、巡回を増やし危険要因を感知する。
3	物損公衆災害	令和6年4月3日	水	9:15	ガス工事	埋設物等の損傷	ガス管敷設の掘削作業で電動ピックを使用したところ誤って埋設されていた給水管（PP管φ20mm）を破損したものを。	【人的対策】 改良土のはつり作業は埋設物があることを想定して慎重に行い、埋設位置を確認する。 【物的対策】 給水管付近に廃止給水管が残置されている場合があるので、埋設物があることを想定して掘削作業を行う。 【管理的対策】 埋設物が想定される付近で掘削作業を行う場合は、監理技術者または作業指揮者が人力掘削での位置確認を指示する。
4	物損公衆災害	令和6年4月5日	金	10:10	土木工事	埋設物等の損傷	伐根作業において、BH（0.1㎡）の爪で根の上部の破砕を行っていた際に、付近に埋設されていた水道配水管に木の根が巻き付いていることに気づかず、根を動かしたことで水道配水管を破損させた。	【人的対策】 今回の水道配水管損傷事故について、作業員と事故発生時の状況確認、原因の究明、再発防止策について話し合う事故検討会を開催し、検討事項について作業員への周知徹底を図ります。 【物的対策】 今回のように埋設管が確認できない施工箇所については、監督員と協議を行い、チェーンソーで支障となっている根の上部（GL-30cm程度）のみを除去するなど、伐根作業を行わない方法を検討します。 【管理的対策】 施工前に地下埋設物の照会を確実にし、監督員と位置・箇所数の協議をし、試掘を実施します。埋設管の位置が特定できない場合は、地下埋設物の管理者と立会を行い、施工方法や施工範囲について協議します。
5	物損公衆災害	令和6年4月9日	火	8:10	建築工事	その他物損	天井から雨漏れが発生した。	【人的対策】 ・解体作業時に躯体や配管の切断・引上げ等を行う際は必ず撤去してよいものが確認してから作業を行うため、確認作業を行う監視者を配置する。 【物的対策】 ・既存建物に繋がっている配管がある場合は切断等の処理をする。スラブ内にある場合などは、躯体とともに解体しないよう配管付近の解体作業が近づいたら朝礼・KY等で作業員に再度周知する。 【管理的対策】 ・既存建物に繋がっている配管が無いか再度確認し、現在残っている配管や解体してはいけない埋設物等の施工計画を作成し、作業員に周知する。 ・既存施設に影響の出る作業の際には事前に監督員に報告し作業時間や作業方法の打合せを行い作業する。また、作業開始前（8：15）、作業中（10：45、14：30）、完了後（16：30）に現場確認を行う。 ・雨の日や水を使用する作業がある日の排水計画について（排水ポンプを設置すること等）施工計画書に明示する。 ・現場管理の常駐人員を1人（前職安全管理担当）追加し、安全面の管理を行う。 ・各重機作業に対する監視者を1名配置し、危険作業がないか常に監視する。（前述の常駐者と監視者は兼ねる場合もある） ・毎週1回、下請業者と今後の解体作業での事故の危険予測に関する打合せを行う。 ・外部講師（安全教育センター）を招き、解体工事に関する研修を行う。
6	物損公衆災害	令和6年4月24日	水	15:30	その他	草刈り・伐採等	緑地内法面の樹木の伐採作業中、玉切にした伐採木を高さ5m付近から転がして、下のいた作業員が受け止める際、止めることができず、近くに停車していた原動機付自転車の方フエンダー部に接触し塗装に傷をつけたもの。	【人的対策】 作業前のミーティングや現場巡視等において、業務担当者から作業員への指示を徹底し、改めて社内安全教育において周知を行う。 【物的対策】 伐採木を集材する際には、幹を細かく玉切りし、手や紐を使用して安全に作業を行う方法を再確認し、周知徹底を行う。 【管理的対策】 安全施設の設置を強化し、近接する建物や車両に直接資材や機械が接触することのないよう安全対策の強化を行う。
7	労働災害	令和6年4月23日	火	16:00	建築工事	転倒	施工状況を確認しようと縁石をあがって移動しようとしたところ、左足が縁石に引っ掛かり左膝をぶつけて転倒した。	【人的対策】 ・現場作業員に向け、事故周知会を実施。 【物的対策】 ・ブロック上にカラーコーンを設置し、通行・昇降禁止の表示を行う。 【管理的対策】 ・誘導員移動通路の変更。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
8	労働災害	令和6年4月26日	金	11:40	土木工事	はさまれ・巻き込まれ	足場の撤去作業時に足場板を持ち上げる際、足場板と台木の間に指を挟み負傷した。	【人的対策】 ・全作業員に対し、安全教育や指導を行い、再発防止を図る。 【物的対策】 ・足場板の集積時に2列をやめ1列にする。 ・足場板の集積時の高さを1 mにする。 【管理的対策】 ・作業方法を決めてKY活動の際に確認し、具体的な作業安全指示を行う。
9	物損公衆災害	令和6年5月2日	木	14:45	建築工事	重機等の接触・転倒	工事用車両出入口からラフタークレーン車（25 t）を出場させる際、車両の左前輪タイヤをガードパイプ支柱に接触させ支柱及び横桟を破損。	【人的対策】 運転手が退場しやすいように、運転席側から巻き込み確認できる右折退場を当現場のルールとする。また、左側の確認については、運転手はもとより、誘導員も含め確認を行うこととする。 【物的対策】 誘導員を必ず2名配置し、歩行者・自転車・第三者車両がない事を確認してから運転手へ確実に合図を行った後、車両を動かすこととする。 【管理的対策】 元請職員は作業日毎の車両大きさ・種類を把握し、朝礼・KY活動時に誘導員・関係業者・ドライバーにガードレール位置情報・入退場方向を確実に周知してから作業を開始する。
10	労働災害	令和6年5月10日	金	14:00	建築工事	転倒	被災者は、地上にて躯体解体の手元として散水作業を行っておりホースを引っ張っていたところバランスを崩しよろけて足をくじいてしまい負傷した。	【人的対策】 作業場所の整理状況を確認し、十分に注意しながら焦らず作業を行う。 【管理的対策】 誘導員を他の作業員にも周知するとともに、再度工程を説明し、充分に注意しながら作業を行うように周知する。また、場内の整理を徹底し、足元が悪い場所でなくとも、作業・移動中の注意を怠らないよう再度周知徹底する。
11	物損公衆災害	令和6年5月13日	月	9:50	水道工事	埋設物等の損傷	市道において連絡工事のため、0.1m3バックホウで機械・人力併用掘削を行っていたところ、既設水道管の下越し部から立ち上がったガス管（PE-50A）にバケットの先がバケットを返す際に接触し、水道管下越し部の継手よりガス漏れが生じた。	【人的対策】 作業開始前の現場確認（当日施工範囲の埋設状況）を徹底し、作業者に対し現場環境・指示・指導を徹底する。埋設物があることを再認識し、手掘りで埋設物の位置を直接確認してから土砂の掘削作業を行うことを徹底する。 【管理的対策】 再発防止検討会により、原因・再発防止対策を確認。朝礼にて周知し、現場にて改善状況を確認。
12	物損公衆災害	令和6年5月15日	水	9:10	建築工事	重機等の接触・転倒	軒天修繕のために、高所作業車を建物廻りで位置取りしていた。車両誘導役を配置して、その誘導の元、高所作業車を操作していたが、運転手がハンドル操作を誤り、誘導とは違う動きをしてしまった。その結果、高所作業車が建物の基礎立上りと衝突し、基礎立上りのコンクリートを損傷させてしまった。	【人的対策】 ①誘導役は、注視したフェンス基礎側の間隔だけでなく、反対側の体育館基礎側の間隔も確認してから、車両を誘導する。 ②運転手は、誘導役に反対側の間隔も確認させ、両側の間隔が安全であることを確認後に、車両を運転する。
13	物損公衆災害	令和6年5月16日	木	16:50	建築工事	その他物損	1階床スラブ下に残置側と解体側でつながる配管があり、その配管を解体作業中に撤去したことにより、残置側の配管が引っ張られ、配管が破損し、その配管内の残水が漏れ、地下1階天井から雨漏れが発生した。	【人的対策】 ・解体作業時に躯体や配管の切断・引上げ等を行う際は必ず撤去してよいものが確認してから作業を行うため、確認作業を行う監視者を配置する。 【物的対策】 ・既存建物に繋がっている配管がある場合は切断等の処理をする。スラブ内にある場合などは、躯体とともに解体しないよう配管付近の解体作業が近づいたら朝礼・KY等で作業員に再度周知する。 【管理的対策】 ・既存建物に繋がっている配管が無いが再度確認し、現在残っている配管や解体してはいけない埋設物等の施工計画を作成し、作業員に周知する。 ・既存施設に影響の出る作業の際には事前に監督員に報告し作業時間や作業方法の打合せを行い作業する。また、作業開始前（8：15）、作業中（10：45、14：30）、完了後（16：30）に現場確認を行う。 ・雨の日や水を使用する作業がある日の排水計画について（排水ポンプを設置すること等）施工計画書に明示する。 ・現場管理の常駐人員を1人（前職安全管理担当）追加し、安全面の管理を行う。 ・各重機作業に対する監視者を1名配置し、危険作業がないか常に監視する。（前述の常駐者と監視者は兼ねる場合もある） ・毎週1回、下請業者と今後の解体作業での事故の危険予測に関する打合せを行う。 ・外部講師（安全教育センター）を招き、解体工事に関する研修を行う。
14	労働災害	令和6年5月14日	火	9:40	設備工事	転倒	仮設電線のスラブ内配線作業完了後、他の作業に移る為、足場内（GL面）から1階床資機材をおこうと根絡みパイプを跨いだ際、1階床ラインの型枠締付け金物（フォームタイ）に左足スネを接触し被災した。	【人的対策】 作業指揮者の指示のもと、近道行為を行わないように指導する。 やむを得ず狭所に立ち入る際は、事前に足元を確認する。 【物的対策】 建屋への立ち入りが容易であった為、単管パイプを取り付け通行できない状態にする。 【管理的対策】 立ち入り禁止の表示を取り付ける。
15	物損公衆災害	令和6年5月20日	月	16:30	設備工事	その他物損	新設したエアコンに電源を配線する際、配線元となる2階動力盤を誤ってショートし、焼損させたもの。	【人的対策】 作業前に主電源を確実に断にするよう、既定の手順を徹底する。 【物的対策】 絶縁性の工具を使用し、検電器等による事前確認を行う。 【管理的対策】 作業手順を事前確認のうえ、複数人で作業を行うようにする。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
16	物損公衆災害	令和6年6月3日	月	10:30	ガス工事	埋設物等の損傷	市道において、ガス供給管（PE30A）敷設のためバックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていた水道給水管（PP20）にバケットを接触させて破損させたもの。	【人的対策】 埋設物付近の重機使用を避け手掘りで慎重に作業を行う。 【物的対策】 露出予定の埋設物の位置や深さを確実に確認する。 【管理的対策】 作業員と作業指揮者がお互いに埋設物の位置確認を行いながら作業を行う。
17	物損公衆災害	令和6年6月4日	火	14:00	建築工事	埋設物等の損傷	建築物の基礎を撤去するため、0.7m3級のバックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていた汚水管（VPφ200mm）にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 図面で埋設物の位置を確認し、手掘りによる試掘作業を行う。また、配管が平行に埋設されていない可能性も考慮し配管の位置が特定できるまで試掘する。 【物的対策】 埋設配管の確認を行い、発注者及び関係者と協議し離隔の間隔を広げることが可能かどうかを確認する。 【管理的対策】 図面の位置に囚われず、配管経路が特定できるまで試掘を行う。 現場作業員に対する新規入場者教育やKY時における周知徹底を行う。
18	物損公衆災害	令和6年6月5日	水	12:00	建築工事	その他物損	建物の上部の屋根防水施工において、3月下旬に既存立上り防水層撤去のうえ、立上り及び平場の一部に下地処理剤(立上り:アスファルトプライマー・平場:JIA-ス)の施工を行った。その後6/5に屋根下付近の天井から雨漏りが発生した。	【管理的対策】 ①立上り防水層撤去の施工時期の検討と監督員への確認。 ②防水層撤去後は、すみやかに仕上げ防水の施工を行う。 また、仮防水材を使用する際は、使用材料・施工方法について監督員の確認・承諾を得たうえで施工を行う。 ③防水層撤去後は、当日の内にシート養生を行い、仕上防水完了までは撤去部の露出が無いようにする。
19	労働災害	令和6年6月10日	月	15:00	その他	飛来・落下	地盤調査に使用するロット（鋼製の筒、φ66）を地中から抜き取る際に折れ、指にぶつかり裂傷を負った。	【物的対策】 ・作業前の資機材の点検を徹底するとともに高品質な材料を選定する。 ・ボーリングマシンの機体、附属装置及び附属品の備品管理及び交換基準を見直す ・資機材の使用年数及び購入履歴の管理を行う。 ・使用可能年数を0～3年、3～5年、5年以上と3段階に設定し、それぞれの段階に応じて点検頻度、摩耗状況を確認する 【管理的対策】 ・業務計画書にロープ巻き上げによる方法でロットが抜き取れない場合の施工方法を明確に定める ・作業員あてに・ボーリングロットが折れることを想定した安全教育を実施する ・回避動作をあらかじめ練習・繰り返すことで、とっさの状況に対応できるようにする ・回避する際の移動先には工具類を置かない
20	物損公衆災害	令和6年6月10日	月	14:00	その他	草刈り・伐採等	水路敷の除草作業中に刈り払い機による飛石により、個人住宅1F窓ガラスを破損させたもの。	【物的対策】 1 飛散防止（アタッチメント付）の刈払い機を使用する。 2 作業範囲の選定を行い、周囲の状況を十分把握する。 3 作業場所により養生範囲を高く広くする。 4 場所により刈払い機の使用を控え、手作業で施工する。
21	物損公衆災害	令和6年6月7日	金	19:03	設備工事	その他物損	床置きファンコイル撤去準備の為、冷温水管内の水抜き作業を行っていた際、誤って主管バルブを閉鎖していない系統の床置きファンコイル冷温水フレキ管を緩めたため配管内圧力によりフレキ管が離脱・出水し、下階へ漏水した。	【人的対策】 1人作業にならないよう2人以上配置し、JV社員は作業に立会い手順管理を実施する。 【物的対策】 ファンコイル内のエア抜き弁で水圧無しを確認。残水をバケツで受ける。 【管理的対策】 改修範囲階において、水抜き対象の冷温水管系統・往還主弁を全て閉止する。 水抜き作業手順書を見直し、職長・JV社員相互のチェック確認を実施する。
22	物損公衆災害	令和6年6月12日	水	12:00	土木工事	重機等の接触・転倒	積ブロックの施工のため、プレキャスト基礎ブロックをバックホー0.45m3で運搬車両に積み込みしていたところ、アームを伸ばしたまま旋回した際にフェンスに接触し破損させた。	【人的対策】 重機移動の際は一人で行わず付近の作業員との連携により安全確認を行ったうえで移動する。 【物的対策】 重機の導線を確保するため資機材の整理をし、オペレーターに確認の上、車両の仮置き場を決める。 【管理的対策】 ①作業日当日の朝礼等で作業員に注意喚起を行う他、重機の最大作業半径内に障害物がある中での作業の際は、誘導者等を配置し、重機を誘導する。 ②重機の旋回時は可能な限りアームを機械側に寄せ、必ず現場側を旋回方向とし民地側への旋回は行わないように周知する。
23	物損公衆災害	令和6年6月11日	火	10:10	ガス工事	埋設物等の損傷	歩道においてガスBOX及び工作物を撤去するため機械掘削中、雨水排水管にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 ・照会図面に記載がない場合でも、不明管等が埋設されていると予測し、手掘り確認などを行いながら作業する。 ・現場周辺の側溝・グレーチング・マンホール等により埋設管位置の確認を行う。 【物的対策】 ・手掘り確認の後にバックホウを使用するなど、慎重な掘削を行う。 【管理的対策】 ・現場責任者は、作業員に対して状況に応じて手掘りによる掘削を指示するとともに、相互に思い込み作業がないように埋設物の再確認を徹底する。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
24	物損公衆災害	令和6年6月17日	月	11:20	ガス工事	埋設物等の損傷	市道において、ガス管を敷設するため0.1m3級のバックホウにて掘削していたところ、付近に埋設されていた反対車線側用街路灯の電気配線にバケットを接触させて破損したものを。	【人的対策】 電柱等の他事業者施設近傍は人力掘削による埋設物の確認作業を徹底する。 【物的対策】 街路灯用電気配線の図面は整備されていないことが多いので、幹線道路等の電気施設が多い路線は電線からの立下り管がないか確認し、埋設電線が想定される位置を現場にマーキングする。 【管理的対策】 現場代理人は、埋設物付近の掘削作業時にオペレーター及び刃先合図者に対して人力掘削を指示するとともに、相互に思い込みが作業がないように埋設物の種類、数の再確認を徹底する。
25	物損公衆災害	令和6年6月19日	水	14:30	建築工事	資材等の接触・落下	足場解体材の片付け作業で、庭園灯に手すり材をぶつけてしまい、照明ガラス部分を破損してしまった。	【人的対策】 長物を移動させるときは二人作業で行い周囲の確認を行う。 【物的対策】 作業範囲内の対象物の養生を徹底する。 【管理的対策】 朝礼時における指示の徹底。
26	物損公衆災害	令和6年6月22日	土	11:45	水道工事	埋設物等の損傷	水道管(VPφ75)の布設のためバックホウ(0.1m ³)にて掘削中に、既設水道管の上部で交差しているガス供給管(PEφ30)とバケットが接触してしまい、破損させた。	【人的原因】 ・ガス供給管と水道布設部の土砂を手掘りで掘削せず、バックホウで掘り進めてしまった。 ・事故発生時は気温が29°と高く、土曜日の休日施工という意識もあり集中度が低下していた。 ・ガス引込管の一部を手掘りで現わし確認できた安堵感から油断が生じた。 【物的要因】 ・ガス本管が水道布設位置に近接していた。 【管理的要因】 ・現場規制箇所で工事渋滞が発生したため、早期の交通解放が望ましいと考え、掘削作業員が配管作業を手伝うなどしたが、作業分担が煩雑となり、埋設物の位置確認がおろそかになった。 ・道路路面上にマーキング等を行っていたが、現場での周知がおろそかであった。 ・地下埋設物について、作業員全員への注意喚起が不十分であった。
27	物損公衆災害	令和6年6月29日	土	14:05	水道工事	埋設物等の損傷	既設水道管VPφ50撤去のためバックホウ(0.1m ³)にて掘削作業中に、ガス本支管PEφ50に接触させて破損した。	【人的対策】 ・埋設管の付近では、埋設管の確認が完了するまで機械を使用せず、人力による確認を十分に行う。 ・事故発生状況の説明及び対策会議を実施し、再発防止対策を作業員全員に周知する。 【物的対策】 ・バケットを挿し込み作業する際は、作業する周囲を人力にて先行確認を行う。 【管理的対策】 ・試掘結果と地下埋設物管理図面との相違が発生した場合等、不明な状況がある際は、埋設物管理者や発注者と協議の上、指導の下施工することを徹底する。
28	物損公衆災害	令和6年7月1日	月	10:20	水道工事	埋設物等の損傷	水道管布設のためバックホウにて掘削中、道路照明灯の配線用埋設管(FEP管φ50)にバケットが接触してしまい、さや管を破損した。	【人的対策】 浅く埋設されている可能性がある地下占用物が予想される箇所は、路盤内でも一部人力掘削を先行する。 【物的対策】 機械掘削時には爪で引っ掛けないようにバケットの背で一度押してから掘削し、深度を下げていく。 【管理的対策】 確認出来ない予測位置にはマーキングをしない。
29	物損公衆災害	令和6年6月20日	木	10:00	建築工事	資材等の接触・落下	外壁改修工事を行うため外部足場を組立していた際に、手が滑ってしまい足場材(建地)を室外機の熱交換器部のフィンに接触させてしまい長さ10cm程度4ヶ所を凹ませた。	【人的対策】 ・作業前に業者内で打合せ及び作業箇所の確認を改めて行い作業を行う。 【物的対策】 ・作業箇所ごとに業者と確認を行い養生を徹底する。 (シート・合板等) 【管理的対策】 ・全体朝礼等にて全体の工程及び注意事項については周知及び確認を行っていたが、より細かい作業の部分まで業者ごとに打合せができていなかったため、1次業者ごとにKY活動を細かく行い、特に注意が必要な箇所においては指示者を配置し作業を行うようにする。
30	物損公衆災害	令和6年7月2日	火	9:30	その他	草刈り・伐採等	敷地内の除草業務中、草刈り機の刃で支障物(ボルト)を拾い上げ、養生ネットの隙間から駐車中の第三者車輛のドアに接触破損	【人的対策】 刈払い作業の際の飛散防止ネットは刃の回転方向を考慮し、飛散する可能性の高い方向に重点的に配置する。 【物的対策】 刈払い作業を行う前に飛散する可能性のあるものの撤去を徹底する。 【管理的対策】 作業前に人員配置、作業内容、危険箇所などKY等に記録。刈方向や飛散防止ネットの配置について詳細に指示を行い、徹底させる。
31	物損公衆災害	令和6年7月4日	木	10:10	下水道工事	埋設物等の損傷	私道上において新設下水道管布設の掘削中に埋設されていた給水管(PPφ20mm)をバケットに接触させて破損させた。	【人的対策及び物的対策】 ・埋設物近接箇所では、人力掘削を先行し重機を使用しない。 【管理的対策】 ・作業指揮者はオペレーターへの確実な合図・誘導を徹底する。 ・作業前に現地で埋設物の位置等を全員で事前に確認する。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
32	物損公衆災害	令和6年7月11日	木	9:40	水道工事	重機等の接触・転倒	既設水道管(DIPφ350)撤去作業中に、土留め材をユニック(4t)で吊り下ろす際に、旋回したアームがケーブルテレビの支持線に接触し破損させた。	【人的対策】 ・現地KYの他、個別作業開始前に再度作業手順の確認、周囲の状況確認を徹底する。 ・クレーン作業補助員は、旋回時にブームの先端を確認し、旋回誘導を行わせる。 【物的対策】 ・移動式クレーン付トラックはクレーンの旋回範囲内に架空線が入らないように駐車する。 ・架空線直下に注意喚起のための表示器具を設置する。 【管理的対策】 ・複数の作業を同時に行う場合は、現場代理人と現場副代理人がそれぞれの作業の安全管理を行う。 ・クレーンの作業計画書には架空線、構造物等の作業箇所の特徴を記載し、作業員に周知する。
33	物損公衆災害	令和6年7月12日	金	10:00	その他	草刈り・伐採等	植樹帯の除草作業中、人力除草を行うべき箇所で機械刈を行っていたところ、発生した飛び石が走行中の被災者の車に接触し、助手席側のドア2箇所へ傷が付いたもの。	【人的対策】 伐根除草範囲は機械を使わず作業する。機械除草範囲は飛散防止ネットを重ねて隙間を完全に無くし飛び石を防止する。 【物的対策】 ネット持ち係・監視員に笛を持たせ作業する。機械除草は先端器具は飛散防止器具（カルマー）を利用する。 【管理的対策】 臨時安全講習会を開き、作業方法を周知する。通行車両がある場合、笛を吹かせ作業中断を促す。
34	物損公衆災害	令和6年7月17日	水	10:30	土木工事	埋設物等の損傷	ライン導水ブロック（歩車道ブロック一体型側溝）設置工において、掘削作業中に0.1m3バックホウのバケットを給水管にひっかけ破断させた。	【管理的対策】 ・埋設管の位置をマーキングし共有を図る。 ・止水栓等の周囲を掘削する際は床付け位置まで手掘りとする。
35	労働災害	令和6年7月22日	月	13:30	土木工事	熱中症	交通誘導員が具合悪いため休憩にはいったが、その後体調が戻らず救急搬送された。	【管理的対策】 ・現在の熱中症対策を継続し、作業開始前の体調確認を徹底する。 ・体調不良や体調に変化がある場合は速やかに報告するよう指導。 ・休憩所にミスト付き扇風機の設置、熱中症対策グッズの充実化、使用の励行。
36	物損公衆災害	令和6年7月5日	金	13:00	その他	草刈り・伐採等	緑地除草作業時における刈払い機による石はねでの車両窓ガラスの破損事故	【人的対策】 作業員に対し飛び石事故防止についての周知を徹底し、今後の事故防止のため 安全な操作方法についても改めて周知する。 【物的対策】 養生板の使用範囲について、現在の半径5mから10mに変更する。養生板の使用が困難な箇所は、小石などの飛散をより抑えた飛散抑制機（カルマ）を使用する。 【管理的対策】 作業前ミーティングや現場巡視等において、作業員への指示を徹底する。 飛び石防止の再教育を実施する。
37	労働災害	令和6年7月23日	火	14:30	建築工事	熱中症	9F（最上階）スラブ型枠組立作業をしており、14:00に全員で休憩に入った。14:30に再度作業場所に戻ったが本人の姿が見えず電話連絡したところ体調が優れないと報告を受け休憩所で休憩していた。 15:00頃に戻ってこないで様子を見に職長が休憩所に行ったところ、手足のしびれ、痙攣があるとの訴えがあり元請に報告。元請が確認したところ歩くことが困難と言うことから救急車を要請した。 病院にて採血をし、熱中症の中等症と診断される。	引き続き、熱中症対策に努めると共にWBGT値32℃を超える場合は作業を一時中断し、1時間以上WBGT値が32℃を下回らない場合は作業中止を決定する。 災害発生当日現場に据え付けてある計測器では、WBGT値が、25～28℃未満でした。 なお、朝礼では熱中症予防に対する具体的な注意喚起を促していました。
38	労働災害	令和6年7月24日	水	1:15	その他	熱中症	トンネル内照明の蛍光管取り換え作業中に、吐き気、眩暈、歩行困難等、熱中症の症状が出たもの。	【人的対策】 社内安全会議で空調服の着用、熱中症対策品の携帯などの熱中症対策の再徹底をした。 【管理的対策】 社内安全会議で作業員の体調の確認と不調を感じた場合の申告及び救急処置の再徹底した。
39	労働災害	令和6年7月26日	金	9:30	土木工事	熱中症	現場にて軽作業を行っていたところ、めまいを訴えた。その後病院へ行き診察を受けたところ、熱中症と診断された。	【人的対策】 ・休憩時間を通常15分のところ、30分～40分に増やす。（継続・強化） ・休憩時の水分、塩分摂取。（継続） 【物的対策】 ・空調服の全員着用。（継続・強化） ・作業場所の近くにテントを設置し、休憩場所を確保する。（新規） 【管理的対策】 ・熱中症注意喚起の掲示物掲載。（新規） ・作業前ミーティング時の体調確認および注意喚起。（継続）
40	物損公衆災害	令和6年7月26日	金	9:30	設備工事	埋設物等の損傷	既設の電気配管を撤去するため、バックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていた非常水栓用の一次側配管（ポリエチレン管 25A）にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 作業員に対してヒューマンエラーに関する安全教育を実施した。 また、掘削時に埋設シートが複数枚出してきた場合には配管も複数本敷設されていない かを確認するよう指導した。 【管理的対策】 社員に対して現場管理のマネジメント教育を実施した。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
41	労働災害	令和6年7月31日	水	15:05	設備工事	熱中症	作業中に頭痛を訴え、休憩に入った。その後、病院へ行き診察を受けたところ軽度の熱中症と診断された。	【人的対策】 現場係員がWB G T計を身に着けて現場の巡回の強化。 【物的対策】 熱中症対策グッズを現場備品として常備。（再周知） 【管理的対策】 改めて各職長に熱中症に対する注意喚起の周知会を実施。
42	物損公衆災害	令和6年8月1日	木	10:20	設備工事	その他物損	非常停止(5E)スイッチ用を含む制御ケーブルの接続材取付作業中、非常停止のケーブルを短絡し変電所の受電を停止させた。	1)「元請の作業まとめ者」と「下請の作業責任者」は当日の作業前ミーティングにおいて、作業工程とともに重要ポイントを相互に確認するとともに作業者全員に伝え、共通認識を持って作業を行うこととする。 2) 作業内容の重要ポイント(活線近接作業、重量物運搬など)は、作業手順をチェックリストにより明確化した作業計画書に改める。 3) 接続作業については、「元請の作業まとめ者」の許可制とし、接続部の検電を実施後、「下請の作業責任者」とダブルチェック後、作業開始することにする。 4) 電力管理システム工事の重要性や上記1)、2)、3)を含めた再教育を作業員17名全員に8/2朝に実施した。新規入場者に対しては、同様の教育実施後作業に従事することとする。
43	物損公衆災害	令和6年8月2日	金	12:45	土木工事	重機等の接触・転倒	舗装の復旧作業中、資材運搬用の車両が電柱に接触し、電柱が傾いたもの。	【物的対策】 電柱前後には必ずカラーコーンを設置する。 【人的対策】 最小幅員3m未満の道路においてダンプトラック後退時には2名以上の誘導者を配置する。 【管理的対策】 道路最小幅員3m未満:2t及び3t車まで 道路最小幅員3m～4m:4tまで 道路最小幅員4m以上:大型使用可能 上記条件でダンプトラックの選定を行う。
44	労働災害	令和6年8月2日	金	13:50	設備工事	切れ・こすれ	空調ファンコイルを天井に取り付けようとし、床から持ち上げ、リフターに乗せた。リフター上の空調ファンコイルが上下反対だったため、吹出口に手をかけて持ち上げて、上下反対に直し再度リフター上に乗せた。その後、吹出口から手を抜こうとした際に、吹出口外側の鉄板端部に指がひっかかり、指が切れてしまった。手袋はしていたが手袋ごと切れてしまった。	【人的対策】 機器を梱包材から取り出す際は、天地状態を確認し、据付向きに合わせて取り出す。 【物的対策】 切創の危険がある際には、耐切創手袋を使用する。 【管理的対策】 機器取出し時の天地状態の確認、耐切創手袋の使用についての周知会を行う。
45	労働災害	令和6年8月3日	土	9:40	その他	その他	更新機器（1号炉内引出口拡張用伸縮材）の取付作業（工場棟4F）を行っており、休憩のため4Fから6F（クリンルーム）へ階段で上り（この時に息苦しさを感じた）、他の作業者とエレベータで1Fに降りた。1Fのメンテナンス通路を歩いている際、一瞬意識を失いかけ、大扉にもたれた時に意識が回復した。その後、その場に居合わせた作業員が台車に乗せ仮設控室へ移動し保冷材等で身体を冷やした。	【人的対策】 体調に異変を感じたら無理をせず、自主的且つ積極的に休憩するよう指導する。 【物的対策】 冷風機器（スポットクーラー等）の設置、水分・塩分を容易に補給できる「オアシス」の積極的な利用を促進する。 【管理的対策】 こまめな休憩時間を設定する。
46	物損公衆災害	令和6年8月7日	水	11:30	建築工事	その他物損	機械設備の天井扇更新工事に伴い、建築で天井解体作業をした際に野縁の中に配線してあったLANケーブルを切断	【人的対策】 ・作業前に業者内で打合せ及び作業箇所の確認を改めて行い作業を行う。 ・可能な範囲で近くの特設天井扇等から天井裏の配線状況を目視等で確認。 【管理的対策】 ・全体朝礼等にて全体の工程及び注意事項については周知及び確認を行っていたが、より細かい作業の部分まで業者ごとに打合せができていなかったため、1次業者ごとにKY活動を細かく行い、特に注意が必要な個所においては指示者を配置し作業を行うようにする。 ・天井内がそもそも覆けない場合には解体範囲の広げることも検討し作業前に打合せを行う。
47	物損公衆災害	令和6年8月19日	月	9:45	下水道工事	埋設物等の損傷	市道上において下水道管布設替えの掘削中に埋設されていた給水管（PPφ30mm）を破損させた。	【人的対策及び物的対策】 ・埋設物近接箇所では、人力掘削を先行し埋設物を確認するまで重機を使用しない。 【管理的対策】 ・改良土層の掘削における作業手順を定め、埋設物を目視で確認し防護を行った上で掘削を行う。
48	労働災害	令和6年8月20日	火	9:30	建築工事	墜落・転落	仮設ハウス移動に伴い玉掛け作業を行い地切を行い吊荷のバランスが悪かったため玉掛け位置を変更するために脚立にて屋根へ上ろうとしたところ下に脚立を抑える人員はいたもののバランスを崩して転倒して頭部をユニックへぶつけて負傷した。	【物的対策】 脚立ではなく必要高さに上げるはしごを使用する。 【管理的対策】 昇降設備の適切な選定を行う。
49	労働災害	令和6年8月19日	月	15:00	建築工事	踏み抜き	3階支保工型枠の解体及び、集積の作業中、解体した釘付きの桟木を踏み抜き、左足裏を負傷した。	【人的対策】 如何なときも近道行為をしないことを徹底する。 【物的対策】 釘が上向き状態の解体材を存置しない。 型枠解体作業の従事者は踏抜き防止用の安全靴又は、セーフティソール（中敷）の着装とする。 【管理的対策】 人的対策、物的対策を作業手順周知会やKY活動などの安全活動の際確実に作業員へ周知する。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
50	物損公衆災害	令和6年8月21日	水	10:15	その他	草刈り・伐採等	歩道縁石沿い（歩道側）を草刈り機を用いて除草中に、飛び石により自動車左前方扉にキズ（2か所）をつけた。	【人的対策】 車両が通行する際に誘導員が合図を送り作業を一時中断する。 【物的対策】 草刈機エンジン回転数を落とす。 石が飛ぶと想定される方向に防護ネットを配置する。
51	労働災害	令和6年8月23日	金	16:50	水道工事	熱中症	被災者は16時50分頃、吐き気と頭痛とだるさのと背中をつりを感じたと同僚の作業員を通じて会社に連絡した。会社の指示により救急車で病院へ搬送したところ軽い脱水症状（熱中症）と診断された。	【人的対策】 現場責任者はKY活動後も作業員へ体調の聞き取りを適宜行い、作業員も我慢せず少しでも体調に変化があれば申し出れる環境を構築する。 【物的対策】 作業現場のスペースに、可能な限りタープ等で日陰を作り、扇風機等を使用し暑さ及び湿度対策を講ずる。 【管理的対策】 現場責任者は、水分補給の際にスポーツドリンクや塩分補給等も考慮して、作業員の安全に配慮する。
52	物損公衆災害	令和6年8月27日	火	11:30	水道工事	重機等の接触・転倒	建設発生土を積載した10tダンプが国道を走行中、前方を走行していた一般車両が黄色信号で停車したところに、後方の10tダンプが追突した。	【人的対策】 思い込み判断はせず、十分な車間距離の確保等、交通法規を遵守し安全運転を心掛ける。
53	物損公衆災害	令和6年8月26日	月	16:00	設備工事	埋設物等の損傷	燃料地下タンク新設に伴い、バックホウで掘削を行っていたところ機械設備工事にて切り直し予定の下水道配管にバケットが接触し破損したものの。	【管理的対策】 社員及び作業員に対して、掘削時の現場管理に関する教育を実施した。 作業に当たっては、掘削前に埋設物位置を現場内の作業員全員で既存図面により確認し、掘削時には埋設位置が図面のとおりとなっていないことも想定して、機械掘削では少量掘削毎に目視により埋設物がないことを確認しながら、合図者との連携を密に掘削作業を行う。
54	物損公衆災害	令和6年8月26日	月	15:00	その他	草刈り・伐採等	自動車販売店の展示車に、受注者の水路除草作業中に発生した飛び石が接触した。車のガラスが割れた。	【人的対策】 自社作成の飛散防止ネットは自動車、建物付近では使用せず隣接会社の許可を得て会社の敷地側からアルミ製の飛散防止ネットを使用して飛び石を防止する。 【物的対策】 飛散防止ネットの使用ルールを取り決める。ネット持ち係に笛を持たせ作業する。 【管理的対策】 自動車・建物付近では事前確認を怠らず、作業前と作業後の確認ができるように写真等で管理を徹底する。 臨時安全講習会を開き、作業方法を周知する。
55	労働災害	令和6年9月5日	木	12:40	水道工事	はさまれ・巻き込まれ	既設水道管（DIPφ350）の撤去作業中に、バックホウ（0.2m3）の旋回誘導員がダンプトラック（3t）のあおりに手をかけて誘導していたところ、旋回したバックホウのバケットとあおりの間に手を挟まれて負傷した。	【人的対策】 ・旋回誘導者は配置位置が重機の旋回範囲外から確認し、作業を開始する。 ・旋回誘導はバックホウのバケットから目を離さず行う。 【物的対策】 ・朝礼及び現地KY時に作業スペースが充分確保できる車輛の配置位置とし、作業所全体で確認した後作業を開始する。 【管理的対策】 ・バックホウ、ダンプトラック等の実機を用いて実際の施工状況を再現し、旋回範囲と旋回時の危険性を理解させると共に、作業車輛を配置した際の旋回誘導の視認性を考慮した安全な配置位置を確認する実地教育を行うと共に、動画に記録し今後の社内での安全教育資料として活用する。 ・重機作業計画書に旋回誘導者の配置位置を明示し、現地KYで現場代理人が配置を確認した後作業を開始する。
56	物損公衆災害	令和6年9月6日	金	10:00	下水道工事	埋設物等の損傷	道路上において、取付管改築のためスコップにて掘削した際に、堀山内の水道給水管（VP20mm）を損傷させた。水道管の深さは舗装版から1.2m下に埋設されていた。下水道業者が水道給水管の復旧を行った。下水道業者からの連絡の前に、水道局から下水道北管理センターへ連絡があった。	【人的対策】 掘削を行い地下埋設物を現した場合でも、スコップ等の接触により地下埋設物に損傷を与えないよう細心の注意を払い慎重に作業する。 【物的対策】 地下埋設物を現した場合には、掘削状況及び埋設状況に応じて適切な防護を行う。今回の現場状況においては、下図の通り水道給水管をベニア板で防護する。 【管理的対策】 社内でも再発防止対策会議を実施し、作業従事者へ当該事故発生状況、再発防止策及び地下埋設物の破損防止対策（防護方法）について周知徹底した。
57	物損公衆災害	令和6年9月9日	月	10:30	ガス工事	埋設物等の損傷	市道において、ガスを敷設するため0.12m3級のバックホウにて掘削していたところ、付近に埋設されていた公園内水飲水栓の給水管（埋設深0.7m）にバケットを接触させて破損したものの。	【人的対策】 ・埋設物の露出が想定される場合は、人力掘削による埋設物の確認を徹底するとともに、相互に思い込み作業がないように埋設物の位置、深さの確認を徹底する。 【物的対策】 ・マーキング位置は目安であり、ずれがあることを想定し埋設物付近は人力掘削することを作業員全員で徹底する。 【管理的対策】 ・現場代理人はマーキング位置にずれがあることを想定し、埋設物付近の掘削作業時にはオペレーター及び刃先合図者に対し人力掘削の指示を徹底する。
58	物損公衆災害	令和6年9月10日	火	9:30	その他	草刈り・伐採等	停車していた車両に対して背を向けて肩掛け式草刈り機を使用して除草作業をしていたが、飛び石により車の窓ガラスを破損させた。	（調査中）
59	労働災害	令和6年9月5日	木	11:20	土木工事	激突	法面コンクリート解体中、ブレーキを引き抜く際に、防音シート用囲いの単管パイプにぶつかったものの	（調査中）
60	労働災害	令和6年9月10日	火	14:46	ガス工事	転倒	交通誘導員が傾斜地でつまずき転倒した	【人的対策】 ・移動時は周囲の状況を常に確認するよう徹底する。 【物的対策】 ・僅かな段差でも転倒事故がありうることを作業員全員で確認する。 【管理的対策】 ・本災害事例をもとに周知会を実施し、作業現場状況を作業員全員で共有し、現場に段差がある場合は監理技術者が事前に注意喚起を行う。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
61	物損公衆災害	令和6年9月10日	火	22:50	水道工事	埋設物等の損傷	市道において、道路工事にて支障となる配水支管の移設を行うため、新設管DIP（GX）φ200を布設しようとバックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていたガス供給管（PEφ30mm）にバケットを接触させて破損させ破損した。	【人的対策】 ・作業開始前に埋設物の位置確認を作業員全員で行い、埋設物があることの意識を高める 【物的対策】 ・手掘りで埋設物の有無を確認してから、機械掘削を行うことを徹底する 【管理的対策】 ・現場責任者は、KY活動において埋設物があることの周知を行い、作業中においても適宜作業員へ埋設物があることの注意喚起を徹底する
62	労働災害	令和6年9月12日	木	16:00	水道工事	熱中症	作業完了後の清掃作業中に体調不良となり熱中症疑いと診断されたもの	【人的対策】 熱中症を正しく理解し、休憩時の水分補給だけでなく、作業中もこまめに水分や塩分補給をする。 【物的対策】 休憩所には風通しの良い日陰を作り直射日光を避ける。また、冷水等を準備する。 【管理的対策】 気象情報を作業前に確認し、熱中症発生の恐れがあるときは休憩時間を延長し、体調確認の声掛けを行う。
63	物損公衆災害	令和6年9月14日	土	13:30	水道工事	その他物損	水道管布設工事区間車道部の仮設覆工板端部の土砂が崩れ、走行車線の路面が陥没した。	【物的原因】 ・水道管の水路φ「ツクスカバ」ートの伏せ越しの際に設置する覆工板は、可能ならφ「ツクスカバ」ートに受桁を載せる。載せられない場合は、受桁をφ「ツクスカバ」ートに付けるように設置し、横矢板等で隙間を塞ぎ、背面土砂の流出を防ぐ。 【管理的原因】 ・φ「ツクスカバ」ートの舗装へのマーキングは、覆工板設置時に撤去しない位置に行い、試掘後に位置が不明にならないよう、マーライン等で明示しスプレー等で消えないようにマーキングを行う。 【人的原因】 ・受桁設置時の、φ「ツクスカバ」ートの目視確認を徹底する。掘削時に受桁基礎・地山の確認を徹底する。 ・覆工板の設置位置・手順について、社内及び協力業者を交え十分な検討を行い、掘削作業及び覆工板設置作業時の作業計画書を作成し、周知を徹底する。 ・作業の直接指揮が隔々まで行きたるよう、作業計画書の中で危険ポイントや注意事項を洗い出し、現場代理人または主任技術者（監理技術者）が確認する。作業前KYミーティングの際に関係作業員全員に内容を周知させ、作業主任者は作業を直接指揮する。現場代理人又は主任技術者（監理技術者）はその直接指揮が作業計画書で挙げた項目を満足できているかを確認する。
64	物損公衆災害	令和6年9月17日	火	16:00	水道工事	重機等の接触・転倒	試掘作業終了後、撤収のため機材をバックホウで吊りダンプに搬入する際バックホウ頂部を歩道用信号機に接触させ歩道用信号機アクリルカバー底部を破損した。	【人的対策】 作業開始前に埋設物の位置確認を作業員全員で行い、意識を高める。 【物的対策】 手掘りで埋設物の有無を確認してから、機械掘削を行うことを徹底する。 【管理的対策】 現場責任者は、KY活動において埋設物があることの周知を行い、作業中においても適宜作業員へ埋設物があることの注意喚起を徹底する。
65	労働災害	令和6年9月23日	月	10:30	その他	激突され	道路の中央分離帯の抜根除草等の集草積込作業中にダンプトラック2台車が前に前進し止まる寸前に右サイドミラーが作業員（女性）の左肩に接触し負傷しました。	【人的対策】 車を移動するときは前方に人がいないことを確認して、誘導員の指示にしたがい、運転手は周囲の作業員に声掛けをしてから車に乗るように行います。 また、車にのつたら前と左右確認してから移動するように行います。 【物的対策】 集草積込作業時は車の移動等の確認をして行う。 【管理的対策】 KY時に作業内容を確認して、集草積込の注意点の教育を徹底します。
66	物損公衆災害	令和6年9月25日	金	9:30	建築工事	その他物損	新設床下点検口に伴う、床コンクリート解体撤去作業中、コンクリート内部の電線管にコンクリートブレーカが突き刺さり、電線管内部の電線を破損させたもの	（調査中）
67	労働災害	令和6年10月4日	土	11:30	水道工事	激突	作業員が支保工から降りる際に足が滑り、H鋼に股をぶつけた。 休憩時にトイレに行き、血尿が出ており、病院で診察、経過観察との診断であった。	（調査中）
68	物損公衆災害	令和6年10月8日	水	18:00	土木工事	その他物損	側溝の入替を行うため掘削開口部養生していたところ、開口部に隣接しているブロック塀が倒壊したものの。	【人的対策】 ・現場作業に対する安全意識を高めるために、朝のKY活動、午後の作業前打合せ、作業変更時の打合せにおいて想定される危険を考えて全員で話し合いを行い、その結果をKY記録簿に記録を残しその危険に対してどう対応するかを共有する 【物的対策】 ・倒壊や崩壊が想定される危険箇所に対して材料や部材の準備をし、ブロック倒壊、側溝みぞの崩壊を予防する為に土留を設置し、気象の変化による降雨での浸食についてはアルシートや土のうで開口部を養生し掘削溝への雨水の侵入を防ぐ 【管理的対策】 ・倒壊の恐れのある箇所については、倒壊危険箇所の脇が全て開口するといった不安定な状態になることのないよう、開口部を必要最低限にして安全な作業を行う。 ・作業状況を現場代理人や合図者が確認し、倒壊や崩壊の危険が想定される場合は作業を一時中断し、安全が確保できる状態になったら作業を再開する。 ・予想される危険に対する安全教育を実施し、安全に対する意識の向上を図る
69	物損公衆災害	令和6年10月14日	月	13:30	建築工事	その他物損	便所の新規便器用開口補強のあと施工アンカーの穿孔作業を行っていた際に施工箇所付近のスラブに埋設されていた既設の火災報知器用ケーブルが通っていた電線管(E19)をドリルビットでかすめて潰してしまい、中のケーブルが断線した。ケーブルが断線したことにより火災報知器が作動してしまった。	【人的対策】 改めて現地の埋設配管等の位置をより丁寧に確認し、作業員全員に周知させる。 【管理的対策】 今回の経緯を、別途業者も含め改めて共有及び把握をした上で管理を行う

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
70	物損公衆災害	令和6年10月15日	火	10:30	設備工事	その他物損	縦管スリーブを抜く際に、真横に埋設されていた屋外電灯電気配線を損傷した。	【人的要因】 事故内容について周知会を開催する 【物的対策】 事前に既存図面の確認を徹底する (調査中)
71	物損公衆災害	令和6年10月18日	月	14:40	その他	草刈り・伐採等	法面沿いを草刈り機を用いて除草中に、飛び石により自動車右前方部窓ガラスを破損した。	【人的対策】 ・給水管位置は図面と異なる場合もあるので、止水栓の位置等を十分に確認する。 また、新築住宅や区画割の状況が変わっていると思われるところは特に注意し、新しい止水栓と最終柵の位置が離れている場合は最終柵を中心に、前後合わせて2 m程度の範囲にマーキングを実施する。 【物的対策】 ・マーキングを実施した箇所においてG L 0.8m以降は人力掘削する。 【管理的対策】 ・マーキング付近で掘削作業を行う場合は、主任技術者または作業主任者が人力掘削する位置の確認を指示する。 ・事故の際の連絡系統を周知・徹底し、事故発生時は設備管理者及びガス局へ速やかに報告する。
72	物損公衆災害	令和6年10月18日	水	11:30	ガス工事	埋設物等の損傷	市道に埋設してある既設ガス管を撤去するため、バックホウにて掘削中、図面に記載のない給水管（未使用）PPφ20を破損したものの。	【人的対策】 ・目の高さ周辺に支障となる物がある場所で作業を行う際は、保護メガネを着用する。 【物的対策】 ・衝突する可能性がある鉄骨のガセットプレート部分はクッション材やトラテープにより表示及び養生を実施する。 ・頭上高さに支障物がある場合は、注意喚起の看板を設置し作業員への注意を促す。 【管理的対策】 ・本事象の説明及び対策について、周知会を開催し、関係作業員の教育・指導を行う。
73	労働災害	令和6年10月22日	火	13:00	建築工事	激突	屋上でのシンダーコンクリート打設の際、バイブレーター作業に従事しており、先行で設置してあった屋上設備架台の鉄骨（床面+1.0～1.5m程度）に振り向いたときに鉄骨G. PLに保護メガネ越しに目の周りを強打した。	【人的対策】 ・バックホウ操作技術の向上、慎重にバックホウを操作する。 バックホウで積み上げる土砂はバケット容量に適した量とする。 掘削箇所の状況を十分把握したうえで確実に安全確認を行い作業する。 【物的対策】 土のう等で管の保護を行ってから作業する。 【管理的対策】 オペレーターが作業する際は、必ず作業指揮者の指示確認後に行う。
74	物損公衆災害	令和6年10月24日	金	11:00	ガス工事	埋設物等の損傷	市道において、ガス供給管（PE30）敷設のためバックホウにて掘削をしていたところ、バックホウ操作ミスにより、積み上げた土砂がこぼれ落ち、露出した下水取付管（陶管150mm）に当たり破損させたもの。	【人的原因】 緊急災害防止協議会及び作業前ミーティングで規制材設置・撤去時の手順、注意事項を周知徹底させる。 規制材の撤去作業手順として、最初に看板等規制材を全て集め、その後トラックに積み上げる。規制材をすべて集めてからトラックに積み込むことで、看板を固定していない状態で作業員がトラックから離れることがないようにする。 【物的対策】 荷台の仮設トイレ位置を走行車線側にずらし、歩道及び路肩側で規制材の積み降ろし作業をする。中央分離帯での作業の際は、荷台の仮設トイレ位置を走行車線側にずらし、中央分離帯側で規制材の積み降ろし作業を行う。
75	物損公衆災害	令和6年10月10日	火	16:10	その他	資材等の接触・落下	国道で除草完了後に工事看板の撤去作業を行っている際、停車中のトラックに積んであった看板が荷崩れを起こし、通行車線に落下した。車両がその看板を轢いたことで車両底部に傷がついた。	【人的対策】 ・現場における事故内容の共有及び安全教育を徹底する。 ・管理者も含む現地KY及び作業手順の確認を徹底する。 【物的対策】 ・金属切断時のベビーサンダーの使用禁止。セイバーソー等を使用。（状況に適した器具を使用する。） 【管理的対策】 ・作業員だけではなく、管理者を含む現地KY及び作業手順の確認。
76	労働災害	令和6年10月28日	月	11:35	建築工事	切れ・こすれ	便所前室にあるライニングの排水配管の切断作業を行っていた際に、サンダーの刃の角度を誤り、その反動で左腕を巻き込んでしまい、左腕の一部を切ってしまった。	【人的対策】 KY時及び作業開始前に現地で架空線等の位置や危険な箇所を確認し、作業員に周知徹底する。 【物的対策】 施工ヤードに応じた機械を選定する。 【管理的対策】 見張り員を複数配置し死角を無くす。
77	物損公衆災害	令和6年10月28日	月	16:00	土木工事	架空線等との損傷	市道の舗装打換えを行うため、バックホウ0.25m3級にて既設舗装を取壊しし4tダンプに積み込む際、住宅に引き込んでいるN T T線にアームを接触させ切断させた。	【人的対策】 規制帯端部の切削は人力で行う。また、一般車両通行時には交通誘導員が作業員に合図し、切削作業を中断する（機械・人力とも）。 【物的対策】 小型切削機の頭部がはみ出さないよう、あらかじめ現場に停止位置を明示し、小型切削機の作業範囲を明確にする。規制帯端部は人力施工とするが、一般車両が近くを通過するため、徐行を促す対策として「交通誘導員の増員」と「夜間照明の増設」を行う。 【管理的対策】 作業手順書により作業者全員に対して再教育を実施する。
78	物損公衆災害	令和6年11月7日	木	22:20	土木工事	重機等の接触・転倒	走行車線を規制し舗装切削を行っていた。小型切削機にて道路横断方向に切削機を動かし切削を行っていたところ、切削機の先端が規制帯をはみ出し、追越車線を走行してきた一般車と接触した。手前に交通誘導員を配置し、切削機先端がはみ出す際には走行車に停止の合図をしていたが、走行車が停止できず接触した。	【人的対策】 ・埋設物付近は必ず手作業で掘削し、給水管が現れるまで手掘りする。重機による掘削を行わないよう徹底する。 【物的対策】 ・埋設物調査箇所の土砂が調査済箇所の土砂が未調査箇所の土砂が判らなくならないように、調査済の土砂は掘削範囲外に排出する。 【管理的対策】 ・危険予知活動記録表により、作業員全員で埋設管付近作業についての確認を行ってから作業を行う。
79	物損公衆災害	令和6年11月11日	水	8:30	建築工事	埋設物等の損傷	側溝の入替を行うため掘削していたところ、給水管(PPφ20)にバックホウのバケットが接触し水道管を破損したものの。	

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
80	労働災害	令和6年11月13日	金	16:00	その他	転倒	農業用水路の現地調査中に足を滑らせて水路内（幅700mm×壁高700mm）に転倒。転倒した際に右肩を打撲したため、早急に診察可能な長町南たかの整形外科で手当てを受けた。診断結果は脱臼であった。	（１）定期的な安全教育で、装備の重要性とリスクの意識向上を図る。 （２）現地踏査時に危険箇所を図面に書き込み、現地調査作業実施前に作業従事者に周知する。 （３）現場での移動は危険な水路沿いを避け、平坦で足場の良い場所を移動する。 調査場所が雑草で覆われていた場合は、草刈りを行い安全な足場を確保する。
81	労働災害	令和6年11月13日	月	9:30	土木工事	転倒	作業構台上で溶接作業の準備作業をしようとして敷鉄板の上を歩いているとき、あやまって足首をひねった	【人的対策】 足元に注意して歩行する 朝礼、KY等で再度注意喚起する 焦らず慎重に作業する 再度施業手順を確認して作業する 【管理的対策】 現場に足元注意の標識を設置する
82	物損公衆災害	令和6年11月18日	火	15:00	設備工事	その他物損	便所の床スリップを抜く際に、埋設されていた便所照明用の電気配線を損傷した。	【人的対策】 レントゲン写真を印刷し元請け立ち会いのもと、現場確認を行う。 レントゲン写真の施工要領書に上記対策を追記する。 周知会を開き下請け業者に注意喚起及び再発防止策の周知徹底を図る。
83	物損公衆災害	令和6年11月18日	木	11:30	その他	その他物損	コンクリート調査のためコア採取作業を行っていたところ、コンクリート壁面内に埋設されていたテレビ線を配管ごと切断したものの。	【人的対策】 ・コア採取位置を決める際は、埋設管等の確認を位置および深度に特に注意して探査を行う。探査時に多少でも波形の乱れおよび怪しいと思われる波形を確認した場合は、調査位置を変更する。探査機による探査と併せて、必ず裏側の状況確認を徹底する。 【物的対策】 ・鉄筋探査機の深度調整や感度調整による埋設管の視認性向上を図る。 ・コンセント、ジャック、スイッチ類の近傍での採取の場合、スチールテープ等での計測を行い、位置を確認し採取調査位置を決定する。 【管理的対策】 ・現況確認の徹底 平面図での確認：コア抜き作業壁裏面の部屋から、予想される埋設物の有無 階段床、梁等の有無を確認 現地での確認：平面図の確認予測を基に現地確認を行う ・社内でコア採取業務および鉄筋探査時における講習会を実施し、事故状況の確認および対策を協議し、事故の再発防止に努める。
84	物損公衆災害	令和6年11月20日	火	11:15	土木工事	埋設物等の損傷	U型側溝を新設するためバックホウにて床掘を行っていたところ、付近に埋設されていた水道引込管にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 ・埋設管付近の掘削は人力で行う。 【物的対策】 ・給水取出口の位置をあらかじめマーキングし、作業員が確実に目視できる状態にした上で掘削作業にあたる。併せて水道管本管についても同様の処理を行う。 【管理的対策】 ・埋設管付近の掘削は手掘りを厳守する旨を施工計画書に追記し、作業にあたっては施工計画書記載の内容を遵守する。施工計画と異なる点、疑義が生じた場合は管理者および発注者に確認をとる。
85	物損公衆災害	令和6年11月26日	木	11:00	その他	草刈り・伐採等	被害者が帰宅の際、車リアガラスが割れている事象を発見。目撃はしていないが、事故場所北側が除草されていたことから、除草時の飛び石によりリアガラスが割れた可能性がある。	【物的対策】 ・車、通行者、建築物、工作物等の近傍を除草する際は、飛び石が飛散する方向を考慮し、飛散防止ネット（H=1.5m、W=2.0m）を2枚設置する。 ・車、通行者、建築物、工作物等の近傍を除草する際の草刈機械は、飛び石やキックバックが少ない上下刃逆回転ハサミ刈り方式の機械を使用する。 【管理的対策】 ・再発防止対策について社内教育を実施する。
86	物損公衆災害	令和6年11月27日	土	16:40	建築工事	重機等の接触・転倒	移動式クレーンの場外搬出の際、誘導員の誘導のもと市道を後退していたところ、市道脇のゴミ集積所の屋根に移動式クレーンの左後方が衝突した。	【人的対策】 搬出時の道路状況の確認 【物的対策】 レッカー搬入時は前向き入場前向き退場ができる車両を今後選ぶ。 【管理的対策】 誘導員が片側しか確認できない配置にならないよう配置を行う。
87	物損公衆災害	令和6年11月30日	月	0:15	土木工事	その他物損	下り2車線のうち第1車線を舗装打換のため舗装版を撤去作業中、民間駐車場の出入口2箇所のうち手前側に段差（車道側で17cm）があり、駐車場に進入しようとした車両が落下し、フロントバンパーを損傷。	【人的対策】 駐車場出入口に配置された交通誘導警備員は工事車両誘導等のため不在にしない。 【物的対策】 舗装版を撤去し段差が大きい場合にはカラーコーンとコーンバーで閉塞する。 【管理的対策】 24時間出入可能な駐車場の出入口にはカラーコーンを設置する。 駐車場出入口に交通誘導警備員が不在にならないよう調整する。 現場状況に応じて交通誘導警備員を適切に配置する。
88	物損公衆災害	令和6年12月3日	金	9:40	水道工事	埋設物等の損傷	既設水道管DIPφ150撤去のためバックホウ（0.1m ³ ）にて掘削作業中に、ガス本管PEφ50に接触させて破損した。	【人的対策】 ・作業手順の変更が必要な場合は、現場代理人に連絡し、許可を得てから行い、連絡が取れない場合は休工の判断も検討する。作業の中止が出来ない場合には、一旦作業を止め、全員でミーティングを行い、変更する箇所の埋設物情報を確認し、再度現地KYを行った後、作業を再開することで、予定範囲外の埋設物の見落としを防止する。 【管理的対策】 ・試掘調査後に路面上へマーキングしていた箇所を本工事前に確認し、退色が進んでいた場合は再度マーキングすること、当該施工に関わる従事者全員が埋設物の情報を認識出来るように可視化する。また、引継ぎを行う際は、書面での引継ぎを原則とする。現場代理人が携行している資料と同じものを社内にも保管し、さらにそれをPDF化し、端末でのやり取りも可能にすることで、時間が無い場合の引継ぎ不足を防ぐ。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
89	物損公衆災害	令和6年12月5日	木	10:00	建築工事	埋設物等の損傷	擁壁柱状改良施工箇所にて、オーガー掘削作業中に図示では存在しないはずの現存の水道管（ブルへの給水PP管φ50mm）を損傷した。	【管理的対策】 作業内容上、隠べい物や、埋設物に近接した作業を行う場合においては、施工計画時点で、物損の恐れがないか、既存図面及び現況等の知りうる情報を、受注者、発注者、委託監理者、関係部署、施設側と多角的に確認を行うことを徹底する。
90	労働災害	令和6年12月4日	水	14:40	建築工事	転倒	スロープにて可搬式作業足場（立ち馬）を運搬中、スロープ端部に足をかけた際に足を滑らせ踏み外し着地の際、足を捻り被災した。当日、痛みを感じていたがそのまま業務を行った。 翌日、昨日より痛みが増していると感じたため、病院を受診し、捻挫と診断された。（骨には異状なし）	・開口部である旨の注意喚起及び立ち入り禁止措置を行う。 ・開口部となる場合は、足場板等で通路を作成し通行する。 ・大型資材搬入時は足元が確認できるように二人作業で資材を運搬する。 ・類似災害が起きないように、朝礼にて周知会を行った。
91	物損公衆災害	令和6年12月9日	月	16:20	土木工事	埋設物等の損傷	地盤改良のためにバックホウを使用して掘削していたところ、付近に埋設されていた給水取出管（φ20）にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 ・作業前ミーティング時に埋設管がある場合の掘削方法や破損した場合のリスク等を再確認する。（継続・強化） ・埋設管付近を掘削する際は人力掘削を厳守する。（継続・強化） 【物的対策】 ・暗さに応じて作業中断または投光器を設置する。（新規） 【管理的対策】 ・掘削前に埋設管位置をマーキングする。（継続・強化） ・埋設物管理者との事前協議における指示を遵守する。（継続・強化）
92	物損公衆災害	令和6年12月10日	金	15:25	水道工事	埋設物等の損傷	ボックスカルバート下越し部をさや管押込み工法により施工するため立坑掘削を行っていた。 立坑掘削中に軽量鋼矢板のかみ合わせ不良により矢板背面土砂が流出したため路盤の下に空隙が発生した。この空隙部に裏詰め材を投入するために矢板背面の掘削を行った。この際に路盤（RC40）の一部が落下し給水管を破損させガスを漏れを生じたもの。	【人的対策】 作業開始前の現場確認時に掘削部のみではなく周囲にも埋設物があることの再確認を徹底し、施工を行う。 軽量鋼矢板の設置はスレがないよう確認しながら押し込みを行い、スレが確認できた場合は再度、押し込みを行う。 土砂崩壊等の恐れがある場合は、その危険を排除してから次の作業を行う。 【管理的対策】 再発防止検討会により、原因・再発防止対策を確認。 朝礼にて周知し、現場にて改善状況を確認。
93	物損公衆災害	令和6年12月12日	火	16:10	下水道工事	埋設物等の損傷	下水道取付管（土被り1.15m）の入替作業完了後、埋戻しを行うため木製の締固め道具（丸太に柄を固定）を使用し砂の締固めを行った際、堀山内の水道配水管（VP50mm、土被り1.0m）を損傷させた	【人的対策】 埋戻しを行う前に、舗装版等へ地下埋設物の位置をマーキングし明示する。 他管理者が所管する地下埋設物周辺の保護砂埋戻しの際には、水締めによる締固めを行う。 【物的対策】 水道管及びガス管等の他管理者が所管する地下埋設物を露出させた場合には、直ちに管理者へ現場立会を求め適切な防護処置を施す。 【管理的対策】 社内にて災害再発防止会議を実施し、作業手順書の修正を行った（上記内容へ修正）。また、社員及び作業従事者に対し、当該事故発生状況・事故原因・再発防止策・作業手順について周知徹底した。
94	物損公衆災害	令和6年12月12日	月	12:15	水道工事	重機等の接触・転倒	市道において、漏水修繕（給水管LPφ20）による埋戻し作業を行っていたところ、バックホウを移動した際にアーム部分を接触させてカーブミラーを破損させた。	【人的対策】 バックホウ移動時は、現場周囲の障害物状況の再確認、アーム部とカーブミラーの安全な距離の再確認を行ってから移動をする。 【物的対策】 可能な限りカーブミラー直下での作業は行わないようにする。 【管理的対策】 機械誘導員とオペレーターとの合図を再確認し、バックホウアーム部とカーブミラーが接触する前に早めに合図を行い、接触しないようにする。 また、社内でも再発防止協議会を実施し、作業員に周知徹底を行う。
95	物損公衆災害	令和6年12月13日	火	14:16	ガス工事	埋設物等の損傷	既設ガスを撤去するため0.12m3級のバックホウにて掘削していたところ、付近に埋設されていた宅内給水管にバケットを接触させて破損したものの。	（調査中）
96	物損公衆災害	令和6年12月16日	金	11:00	設備工事	埋設物等の損傷	市営住宅の敷地内にある外灯の基礎工事で、バックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていた水道配水管にバケットを接触させて破損させ、住宅3棟、約60世帯が断水したものの。	【人的対策】 ・埋設表示シートの敷設が無いことを念頭に、必要時には手掘りによる試掘を行い埋設物の有無を確認する 【管理的対策】 ・既存図面を基に調査を行い、ＫＹミーティングなどで危険性を理解させ安全作業を進めるよう指示を行う
97	物損公衆災害	令和6年12月16日	火	10:30	水道工事	その他物損	既設水道管HPPEφ50撤去のためバックホウ（0.2㎡）にて掘削作業中に、下水道汚水MHの鉄蓋高さ調整巻立コンクリートに接触させて破損した。	【人的対策】 刃先確認者は、埋設物だけではなくマンホール等の表層に見える構造物についても、必ず手掘り先行確認を行い、オペレーターと情報を共有する。 【物的対策】 構造物等がある場合は、事前に現場代理人及びオペレーター、刃先確認者で丁寧に現地調査を行い、構造を理解したうえで離隔を確保し掘削する。 【管理的対策】 現況が不明な箇所については、作業前に既設埋設物・構造物の事前調査を行い、各管理者と協議する。 資料を用いて作業員を教育し、理解したことを確認のうえ作業にあたる。
98	労働災害	令和6年12月19日	月	14:40	建築工事	墜落・転落	作業が完了し、立馬から降りようとしたところ、立馬の1段目を誤って踏み外し転倒した。 転倒した際に頭を床面にぶつけた。（ヘルメットは着用していた）	【人的対策】 ・再発防止協議会の開催。 【管理的対策】 ・72歳以上の作業員は、立馬作業を禁止とする。
99	物損公衆災害	令和7年1月7日	火	15:30	水道工事	埋設物等の損傷	試験掘削中に軟岩を破砕するためピックを使用していたが、刃先が既設水道管VPφ50に触れ、破損したものの。	【人的対策】 常に埋設管が出ることを想定し岩盤層の掘削動作を細かく行う 【管理的対策】 作業時間に余裕を持った施工を行う
100	物損公衆災害	令和7年1月10日	金	16:25	その他	重機等の接触・転倒	凍結防止剤散布作業中に緩い右カーブでスリップし左側に膨らみ、助手席側サイドミラーと民家外壁が接触した。	他工区含め各車両の運転手を集め、緊急安全訓練を実施した。事故の概要等を共有し当該車両だけではなく他の車両も含め路面 状態等を注視することを改めて徹底させ事故の発生を防ぐように周知した。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
101	労働災害	令和6年12月23日	月	11:10	水道工事	重機等の接触・転倒	現場事務所（資材置き場）にて、工事で発生した既設水道撤去管の鉄部と塩ビ部を分離するため、エンジンカッターにて管の分離切断作業を行っていた。その際に左足を切断部付近に置いたところに、切り終えたエンジンカッターの歯が誤って左足背（足の甲）に接触し裂傷した。	【人的対策】 ・エンジンカッター使用時は刃先の直線上に足を置かない。 ・切断作業時は体制を整えて行う。 【物的対策】 ・切断する物を角材等で挟み込み、固定を確認してから行う ・鉄板は使用せず、足場がしっかりしている平らな場所で安定を確認してから切断する。 【管理的対策】 ・「ひとり作業」はしない・させない
102	物損公衆災害	令和6年12月4日	水	13:37	土木工事	埋設物等の損傷	名掛丁エスカレーターに止水板を設置するため、中間支柱の設置作業を行ったあとに、エスカレーターの中央光電ボールの非表示及び自動発停機能の不具合が生じた。	【人的対策】 管に近接して作業を行う場合は、配管保護を行う。
103	労働災害	令和6年12月25日	水	13:50	土木工事	切れ・こすれ	資材積込作業中に4tトラックから降りる際、荷台から飛び降り木材（5cm角材・長さ1m程度）の上に着地し、その木材が跳ね顔面に直撃した。その際に着用していた眼鏡が破損し、左目の下を切った。	【人的対策】 1. 動作を行う前に一呼吸し、落ち着いて行動する。 2. 相番者と作業分担を明確にして作業する。 3. 指差呼称して安全確認する事と、安全意識を高める。 【物的対策】 1. 荷台へ昇降する階段を両側に取り付ける。または、適時使用側へ移動する。 2. 資材の仮置き場を設けて荷台への積み込みを簡単にする。 【管理的対策】 1. 現地で作業前に危険予知活動を実施する。 2. 会社や役職を問わず声の掛け合いをする。 3. 荷台の昇降については、特に危険予知活動に盛り込む。
104	物損公衆災害	令和6年12月25日	水	16:00	建築工事	資材等の接触・落下	解体材を搬出する際、台車から搬出用ダンプに積み込み時に平台車上の解体材（木材）のバランスが悪く平台車が転倒。平台車四隅の単管が、ガラス戸に衝突し、破損させた。	【人的対策】 ・運搬、積み込み等行う際は片側に重心がいかにない様にバランスを考えて作業する。 【物的対策】 ・硝子等の破損の恐れがある場所は事前に養生し作業前に確認を徹底する。 【管理的対策】 ・運搬、積み込み時等の危険要因の洗い出しを事前に現場確認後に実施し事前に対策を計画、作業開始前、作業中に計画通りに作業が行われているか適宜確認し管理する。
105	物損公衆災害	令和7年1月21日	火	12:30	ガス工事	埋設物等の損傷	利府町道において、ガス供給管（PE30A）敷設のためバックホウにて掘削をしていたところ、当該需要家に供給されていた水道給水管（鉛管20mm）にバケットを接触させて破損させたもの。（施工業者にて利府町水道局への事前照会を行い、「設備無し」との回答を得ていた）	・作業前のKYKにて、合番者、バックホウ運転者と他埋設部の有無及び可能性について十分確認作業を行い、注意箇所等を共有し作業を進める。 ・バックホウで掘削する場合は、手掘り等で埋設物が無いことを確認しながら掘削を進めていく。 ・受注者の工事部内において周知、共有を行い、事の重大さを認識させ、今後このような事態を起こさないよう徹底する。
106	物損公衆災害	令和7年1月21日	火	22:50	下水道工事	埋設物等の損傷	汚水取付管の接続替えをするため掘削した際に、0.25m3のバケットが深さ0.6mの位置にある仮設水道管φ50mmに接触し損傷させた。	【人的対策】 ・重機オペレーターの専任 ・全作業員へ元請職員から埋設管位置の周知 ・手掘り先行にて掘削を行う ・固い地盤に関しては振動力の弱い電動ピックを併用、人力掘削の実施 【物的対策】 ・舗装上にスプレー等で埋設物のマーキング明示 ・事務所安全掲示板と作業現場へ埋設管情報の掲示 【管理的対策】 ・刃先監視員の配置 ・重機オペレーター、刃先監視員の配置を確認してから作業開始
107	死傷公衆災害	令和7年1月22日	水	14:20	設備工事	激突され	仮間仕切りエリア外にて、天井内の冷温水配管の保温工事作業中に、天井が下がらないように補強材として使用していた突っ張りスタンドが倒れ、第三者の肩にぶつかってしまった。	【人的対策】 市民が利用するエリアの作業は休日に行う。 【物的対策】 天井内作業を行う場合、天井作業下部の影響範囲へカラーコーンを設置し、立入禁止措置を行う。 【管理的対策】 市民が利用するエリアの作業を行わなければならない場合には、事前に庁舎管理者へ作業場所、作業内容、作業時間、立会い者を記載した計画書を提出し、承諾を得てから作業を行う。
108	物損公衆災害	令和7年1月27日	月	8:45	設備工事	埋設物等の損傷	市営住宅の敷地内にある外灯の基礎工事で、バックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていた貯留槽にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 ・不明な埋設物を発見した場合は、作業を中止し、状況を把握したうえで作業を再開する。 【管理的対策】 ・埋設物がわかる図面等の情報を収集し、得た情報を作業員に周知してから作業する。
109	物損公衆災害	令和7年1月28日	火	10:00	土木工事	埋設物等の損傷	バックホウによる側溝工床掘作業中に宅地給水管（宇山下1-4宅）を引っ掛けたもの。	【人的対策】 占用物の施設台帳を参考にするが、地下埋設物が常にあると想定しながら、慎重に掘削を行う。また地下埋設物付近はスコップで慎重に人力にて掘削を行い、作業員全員で事故防止に努める。 【管理的対策】 占用物の施設台帳と現地で事前に照査し、朝礼など作業前に作業員全員に地下埋設物の周知を徹底する。また、事故が発生した場合には施工計画書の「緊急時の体制及び対応」に基づき関係各所へ迅速に連絡する。
110	物損公衆災害	令和7年1月29日	水	9:15	その他	重機等の接触・転倒	桜ヶ丘東公園に隣接する下水道管理用地の除草のため公園内へ作業車を駐車し、作業完了に伴い方向転換のため後退した際、公園内の公園灯ポールに接触し破損（変形）させた。	【人的対策】 作業車両の移動の際は、交通誘導員の配置を徹底する。 【物的対策】 バックモーターのスイッチは切らない。 【管理的対策】 社内において工事故再発防止会議を開催し、当該事故発生状況の報告を行い作業手順を再確認し、再発防止に努めることにした。

N0.	事故の種類	発生年月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
111	物損公衆災害	令和7年1月31日	金	10:50	ガス工事	埋設物等の損傷	仙台市青葉区川平三丁目2-25地先において、不要供給管のブラグ止めのため、バックホウ（0.1m3級）にて車道を掘削していたところ、付近に埋設されていた川平三丁目2-25宅の下水道取付管にバケットを接触させたことによって当該管を破損した。	【人的対策】 図面に記載されていない埋設物もあることを想定の上、人力調査も併用のうえ掘削する。 【物的対策】 本工事においては下水道平面図と整合しない位置に埋設されていることも想定し、宅内柵側からの事前調査も行い管路を確認する。 【管理的対策】 主任技術者または作業主任者は、埋設物等が想定される付近で掘削作業を行う場合は人力調査を徹底するよう作業員に指示する。
112	労働災害	令和7年2月3日	月	22:40	土木工事	墜落・転落	被災者は屋根の庇を撤去する際、屋根に上り木製の庇に足をかけたところ、庇が外れ3m下の床に落下した。この時、安全帯は装着していたが、手摺等にかけてはいなかった。	（調査中）
113	物損公衆災害	令和7年2月10日	月	14:20	建築工事	埋設物等の損傷	ダックアウト等改築工事現場において、1塁側ダックアウト横で電線管埋設のため、0.06mバックホウにて掘削をしていたところ、付近に埋設されていた水道配水管（PPφ25mm）にバケットを接触させて破損させた。	【人的対策】 資料（図面等）で掘削箇所埋設物の確認する。 【物的対策】 該当箇所付近は、重機による作業を中止し手掘りの作業で行う。埋設シートの確認をする。
114	物損公衆災害	令和7年2月10日	月	10:45	その他	草刈り・伐採等	大年寺山公園内の住宅地に近接する樹木を伐採作業中、伐採した木の枝をが隣接する戸建住宅の窓ガラスが接触し、窓ガラスが破損したものの。	（調査中）
115	物損公衆災害	令和7年2月13日	木	15:30	土木工事	架空線等との損傷	バックホウ移動の際、アームのたたみが不十分で、上空のN T Tケーブルをアームで押した。この影響により、N T T柱が倒れた。	【人的対策】 ①再発防止周知会の開催 ・今回の対策事項の会社員・協力会社等への周知・確認 ・教育 資料 の再確認 ・I 工区、A 工区の関する作業内容、設計図書の確認 ・類似 災害 の紹介 ・ヒヤリハットの収集、記録 ②毎回実施するKY活動等を最大限活用し、不安全行動等は見逃さずお互い声を掛け合う等、活動が形骸化させないよう環境を整備する。 【物的対策】 対象電線手前に架線接触防止柵を設置する。 ※事故発生場所における作業は完了していることから、上記対策は今後行うこととし、0.45m3バックホウを搬出する際は複数人の監視者を配置し、合図者をオペレーターが目視できる箇所に配置して行う。 なお、搬出作業は、電線・電話線の高さ、バックホウの高さを計測して接触しないことを確認してから開始する。
116	物損公衆災害	令和7年2月10日	月	2:33	その他	重機等の接触・転倒	緩い下り坂を回送中、路面が非常に凍結していたため時速5km程度で走行していたが、タイヤがロックしてしまい、スリップしたまま擁壁に衝突した。	事故が発生した工区の運転手に加えて事故発生工区以外の運転手も 集め、緊急安全訓練を実施した。事故の概要等を共有し、天候を考慮しながら路面状態等を注視することを改めて徹底させ事故の発生を防ぐように周知した。
117	労働災害	令和7年2月18日	火	23:30	下水道工事	切れ・こすれ	被災者は構造物取壊し作業中、手持式ブレーカーが右足甲脇に接触した。	【人的対策】 対象物に正対する姿勢をとる。 【物的対策】 作業内容により空気排出量を抑制する。 【管理的対策】 ヒューマンエラーを防止するようブレーカー使用時に対象物に正対し作業するよう再教育する。 また、事故の把握に時間を要したため、小さな「が」でも職長、代理人に報告するよう周知するとともに、作業の合間や休憩時に作業内容について打合せを行う。 現場内の連絡体制を70-で見える化する。
118	物損公衆災害	令和7年2月19日	水	12:30	ガス工事	埋設物等の損傷	私道において新設ガス支管（PE50）敷設工事のため、バックホウにて掘削中、図面に記載のない下水取付管（VUφ150mm：汚水管）を破損したものの。	【人的対策】 ・図面に記載されていない埋設物があることを想定し、人力調査を併用の上、掘削する。 【物的対策】 ・図面に下水取付管が記載されていない場合は、宅内柵側からの事前調査も行い管路を確認する。 【管理的対策】 ・余裕を持った作業計画を立て、現場状況の変化にも対応できるよう作業を進める。 ・現場責任者は図面に記載がなくても、周辺の埋設状況から管路が想定される位置で掘削作業を行う場合、人力調査を徹底するよう作業員に指示する。
119	物損公衆災害	令和7年2月21日	金	23:35	下水道工事	埋設物等の損傷	簡易舗装部において、下水道管φ250を撤去するため掘削作業を行っていたところ、付近に埋設されていたガス管（中圧B-φ200）にバケットを接触させ、管頂部の被覆を破損させた。	【人的対策】 埋設管付近の掘削ルールを再教育する。 【物的対策】 管周りは手掘りを基本とし、困難な場合は外側から内側へピック等を使用し、斫り作業を行う。 【管理的対策】 現場関係者及び会社現場管理者へ事故の重大性を再認識させる。
120	労働災害	令和7年2月25日	火	10:20	建築工事	切れ・こすれ	シャッターゲート改修に伴い、シャッターボックス内結線中に、周囲シャッターケース内部材（L型アングルの切断面）に接触し右手人差し指第二関節から根本付近まで切傷した。	（調査中）

N0.	事故の種類	発生日月日	曜日	時間帯	工種	事故の型	事故の概要	再発防止策
121	物損公衆災害	令和7年2月25日	火	14:10	建築工事	重機等の接触・転倒	解体材搬出のため、10 t ダンプトラックが現場より退場する際に児童保護者の送迎車両に道を譲ろうと後退した際に後ろの被災車両に接触した。入場当時は、誘導員をダンプ前方部に2名配置していた	【人的対策】 大型車両の搬入出時は、常駐の誘導員を学校共同出入口に1名から2名へ増員配置する。 搬出時においては車両前方、側方は常駐警備員を配置し、車両後方は現場ゲートから学校共同出入口までの誘導を搬出入を行う業者誘導員にて行う。 送迎車等の一般車は前後車両の状況により、進入待機者の前進がより安全である場合は運転手の方へ協力を促す誘導をおこなうと共に搬出入車両の後退は原則禁止としやむを得ない場合は、後方に誘導員の配置を行い合図を開始したうえで後退する。 【管理的対策】 搬入出禁止時間帯を拡大する。 人的対策を現場のルールとして設定し、周知する。 周知方法は現存、今後新規業者も含め通達をおこない、毎月の安全衛生協議会においても繰り返し周知をする。現存の業者については当面の間朝礼、昼礼時に繰り返し周知をおこなう。今後新規業者については事前の個別打合せ等にて再度周知徹底をする。ルール運用の管理について、日毎に最初の搬入車両は、元請職員にて運用の状態を確認する。そのほか常駐警備員にて常時監視を続け、万が一違反等あった場合は、現場代理人等に即時一報を入れ、中止、指導のできる体制を整える。
122	物損公衆災害	令和7年2月25日	火	9:26	土木工事	埋設物等の損傷	バックホウ（0.15m3級）による排水管床掘作業中に水道給水管（PPφ20mm）を引っ掛け破損させたもの。	（調査中）
123	労働災害	令和7年2月27日	木	13:05	設備工事	墜落・転落	第一理科準備室（校舎3階）で天井の給水配管の改修作業時に、6尺（W62×D114×H170cm）脚立より転落し、床面へ右大腿部を打ち付けた	（調査中）
124	物損公衆災害	令和7年3月4日	火	10:45	ガス工事	埋設物等の損傷	仙台市青葉川平三丁目6-15地先において、廃止管撤去のためバックホウ（0.1m3級）にて車道を掘削していたところ、図面に記載のない雨水取付管にバケットを接触させ、破損させたもの。	（調査中）
125	物損公衆災害	令和7年3月7日	金	9:05	建築工事	重機等の接触・転倒	現場事務所設営のため、6 t ユニック車にて右折進入したところ、校門前の歩行者用信号機を破損させたもの。	【人的対策】 ・事前に進入場所を確認し、ゆとりを持った運転ができるようにする 【管理的対策】 ・大型車両を搬入させる際は、交通誘導員だけでなく現場作業員も付き添い死角が生まれないようにする ・信号機に接触しない高さまで荷姿を低くする（事故当時3.5 m 3.3 mほど） ・連続搬入を回避する、交通渋滞が生まれそうなときは一度周囲を周り無理に一度に進入しようとしない
126	労働災害	令和7年3月10日	月	12:50	ガス工事	激突	交通誘導員が一般車両を誘導中に舗装工事中のコンバインドローラーに接触し左足を負傷した。	（調査中）
127	物損公衆災害	令和7年3月11日	火	14:00	土木工事	架空線等との損傷	構造物取壊しのために民地境界付近でバックホウを使用していたところ、民地へのNTT引き込み線にバックホウが接触し破損させた。	（調査中）
128	物損公衆災害	令和7年3月13日	木	11:15	下水道工事	埋設物等の損傷	下水道取付管（土被り1.5m）の入替に伴い、既設取付管の撤去後にバックホウのバケットにて土砂撤去を行った際、堀山内の水道本管（VP50mm）を損傷させた。水道本管の損傷により漏水が発生したため、水道緊急業社が復旧を行った。	（調査中）
129	物損公衆災害	令和7年3月13日	木	10:40	ガス工事	埋設物等の損傷	仙台市青葉区川平三丁目30-22地先において、不要供給管のブラグ止めのため人力にて歩道を掘削中、金テコを使用して固い地盤をほぐしていたところ、付近に埋設されていた水道管（VPφ100mm）に金テコを接触させたことにより破損させたもの。	（調査中）
130	物損公衆災害	令和7年3月14日	金	14:30	土木工事	資材等の接触・落下	施工箇所と部分使用している箇所をフェンスで分けていたが、強風によりフェンスが倒され、施工現場内にあった一輪車が飛ばされ部分使用していた駐車場に停車していた一般車両にぶつかり車が破損した。	【人的対策】 現場の気象情報を確認し、強風時等は現場パトロールを強化する。 【物的対策】 打込杭等の固定が出来ないため、おもり60kg/本→90kg/本に増設する。 工事使用資機材は風の影響を受けにくい場所に移動する。